

第3期医療分野研究開発推進計画の検討の方向性

令和5年 11 月

内閣府 健康・医療戦略推進事務局

1. 総論

(1) 現状総括

基礎から実用化までの一貫した研究開発に着実な進展が見られる。第2期で始めたモダリティ別の研究支援は、研究現場で実用化の意識を進める等の効果も生んだ。

しかしながら、新型コロナワクチンや新規モダリティの研究開発も他国に遅れをとるなど、最先端の研究を医薬品・医療機器等の開発につなげる力の確保が現下の課題である。時代に即したオープンイノベーション、DX 等の進展を取り込みつつ、異分野連携を加速させることも課題である。

(2) 今後の方向性

新しい医薬品・医療機器等を生み出す人材の確保及び医療分野特有の研究開発環境の整備が重要である。

さらに、基礎から実用化への橋渡しをより一層強化するとともに、オープンイノベーションモデルによる異分野融合研究やデータ駆動型研究を推進する必要がある。

2. 主要な検討項目

(1) 知の創造と支える力

新しい医薬品・医療機器等を生み出す創造性に富んだ人材、更にはそれを支える人材が必要である。人材配置の最適化も不可避と考えられる。異分野間での人材循環による知の交流を活性化し、新結合による革新的な知の創出を促すことが重要ではないか。

(2) 研究から医薬品・医療機器等の実用化へつなぐ環境の整備

知財を含めた開発品の評価やグローバル市場への展開について、産学官が目線を合わせる必要があるのではないかと。実用化までのプロセスを熟知している人材による伴走支援を含めた体制等の整備も強化し、研究開発環境の整備を進めることが重要ではないか。

(3) 新時代にふさわしい研究開発活動の展開

研究開発活動のオープンイノベーションモデルへの転換を図り、最新の AI の活用も含めたデータ駆動型研究や、アンダー・ワン・ルーフで融合を実現できる環境の整備を促進すべきではないか。クローズドな体質を打破し、産学連携、国際連携、異分野連携を加速させることが重要ではないか。

(4) モダリティ・研究開発の発展

従来のモダリティの研究を深化させるとともに新規モダリティの創出、育成と開発、導入及び利活用に取り組むことが重要ではないか。併行して、感染症や難病等の国が担うべき疾患に対する研究開発の取組を継続し、発展させることが重要ではないか。